

第3回
特別支援教育を担う教師の養成の
在り方等に関する検討会議
(ヒアリング)

長崎県の 特別支援教育に係る取組の 現状と課題、そしてこれから



「挑戦と継承」

「人を生かし、人が生きる人事」の実現

長崎県教育庁義務教育課
人事管理監 大場 祥一

テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○特別支援教育に係る教室数や在籍児童生徒数の激増

【特別支援学級】

H21 442学級 → H27 674学級 約1.5倍

【特別支援学級在籍者数】

H21 1035人 → H27 1562人 約1.5倍

【通級指導教室数】

H21 69教室 → H27 125教室 約1.8倍

【通級指導教室在籍者数】

H21 917人 → H27 1656人 約1.8倍

テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○特別支援教育を担当する教員の激増と担当教員の課題

【特別支援学級＋通級指導教室】

H21 511人 → H27 799人 約1.6倍

【小・中学校の特支学級担任教員の特支免許状保有率】

H22 35.5% → H27 31.2%

【小中学校の特別支援教育を担当する教員の経験年数】

H26 経験年数0年……………25% (149人)
経験年数3年未満………48% (290人)

テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○特別支援教育に特化した「指導教諭」の配置

【配置の背景】

- ・「長崎県特別支援教育推進基本計画」による小中学校の特別支援教育の充実
- ・特別支援学級や通級指導教室の大幅増に伴う教職員の専門性の向上

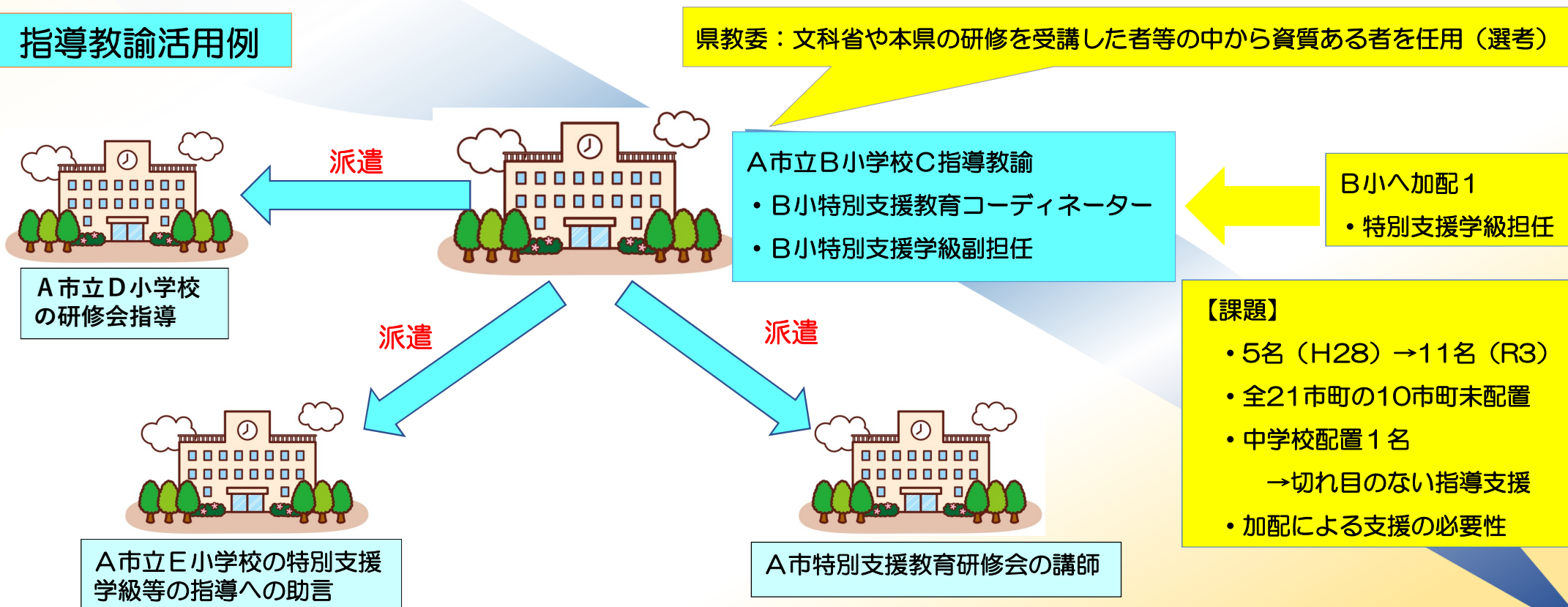
【配置の目的】

特別支援教育について高い指導力等を備えた教諭を任用することで、所属校において授業を受け持ちながら、特別支援教育コーディネーターを務めるとともに、所属する学校に限らず、配置市町内の学校の児童の実態等を踏まえ、他の教員に対して特別支援教育に係る指導、助言を行うことを役割として、教員の特別支援教育に関する専門性の向上に資するとともに、児童生徒一人一人の特性に応じた適切な支援や学びやすい授業づくりなどの一層の推進を図る。

テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○特別支援教育に特化した「指導教諭」の配置

指導教諭活用例



テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○管理職員の特別支援教育コーディネーター兼務

【兼務数】 小学校：29校 中学校：5校

【職名別内訳】 副校長：2名 教頭：32名

【意義】

- ・外部との連絡・調整が円滑になったこと
- ・保護者等の信頼度が高まったこと
- ・校内特別支援教育体制の教職員の信頼度が高まったこと
- ・情報の整理と校内外との情報共有が円滑になったこと
- ・方針の共有や保護者との対応が円滑になったこと
- ・経験知が管理職員自身にも蓄積されてきていること 等

【課題】

- ・コーディネートに集中できる教頭業務の抜本的改革

テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○長崎大学大学院との連携（子ども理解・特別支援教育実践コース）

【ねらい】

子供たち一人一人の個性と教育的ニーズを的確に把握し、的確な指導と支援を行うことのできる高い専門知識と豊かな実践力を持つ教員を養成すること

【実績】 小学校4/15名 中学校2/9名

・大学院→指導教諭→教頭 大学院→主幹教諭→教頭

※大学院での特別支援教育の学びを展開している者

テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○長崎大学大学院との連携（管理職養成コース）

【ねらい】

「長崎県 校長等としての資質の向上に関する指標」を踏まえ、特別支援教育に関する理念を理解するとともに、すべての児童生徒の発達を支援する学校教育を組織的に展開する資質・能力を育成すること

【実績】 H30:10名 H31:6名 R2:4名 R3:6名

・校長職→5名 ・教頭職→10名 ・主幹教諭→1名

※一人一人の児童生徒の実態に応じた的確に対応できる人材育成

テーマ：「長崎県の現状と課題、そしてこれから」

○長崎大学大学院との連携（子ども理解・特別支援教育実践コース）

私は、特別支援の免許を持っていなかったため、大学院では、それまで学んだことがない内容があり大変だった。しかし、学んだことがないことだからこそ、役に立ったことも多い。特に、2年前5年生を担当していた時、不登校傾向もある2名の児童が在籍していたが、当該児童はもとより、保護者との連携を含め、安心して学校に来れるようにできたことは、大学院での学びの成果の一つである。

現在教頭として務める中で、職員から相談を受けることも多いが、支援の仕方等について学んだことを生かして具体的なアドバイスをすることができている。また、大学院で紹介された書物などを職員にも伝えることができている。

加えて、保護者との面談も多いが、子供の支援について、視点を明確にして話をすることができ、信頼関係の構築につながっていると感じる。

第3回
特別支援教育を担う教師の養成の
在り方等に関する検討会議
(ヒアリング)

ご清聴ありがとうございました。



「挑戦と継承」

「人を生かし、人が生きる人事」の実現

長崎県教育庁義務教育課
人事管理監 大場 祥一